

I. 江の島のみどりの重要性和保存

Die Bedeutung von Grün auf der Insel Enoshima und dessen Erhaltung

江の島は相模湾の中央よりやや東に位置した周囲 5 km、面積 0.38km² の小さな島である。かつては満潮時に、対岸の片瀬との間の砂洲が水没して島となったが、現在は大潮でも砂洲がかくれることなく、完全な陸繋島となっている。片瀬とは江の島大橋によって結ばれている。

相模湾沿岸には鎌倉市、藤沢市、平塚市、茅ヶ崎市、大磯町、二宮町、小田原市などが位置しているが、平坦地の大部分は、住宅地や工場地に利用され、昔から持続し保存されていたクロマツ林も海岸沿いの砂防林が細々と防風ネットと背くらべをしているだけで、藤沢市、茅ヶ崎市の一部に狭い面積でかつてのクロマツ林が残されているにすぎない。自然林は、鎌倉八幡宮のスダジイ林（ヤブコウジースダジイ群集）、藤沢市竜口寺のスダジイ林やタブノキ林（ヤブコウジースダジイ群集やイノデータブノキ群集）、鵠沼海岸の皇太后（鳥の森神社）のタブノキ林（イノデータブノキ群集）、大磯町高麗山のスダジイ林（ヤブコウジースダジイ群集）、タブノキ林（イノデータブノキ群集）、ケヤキ林（イロハモミジケヤキ群集）が残されているにすぎない。その他、片瀬丘陵の雑木林、住宅地開発の危機にさらされている鎌倉山の雑木林やスギ植林、大磯丘陵の雑木林など、植物社会学的にはオニシバリコナラ群集でまとめられるコナラ林、ミズキ林やイヌシデ林が局地的に残されている。

江の島は、かつて“絵の島”と呼ばれていたように、島の周囲をタブノキ林、スダジイ林などの冬でも緑の常緑広葉樹林でおおった緑と海の青さの均衡のとれた自然を維持してきた。昭和39年（1964年）の東京オリンピックによる江の島東部のヨットハーバーの建設は、江の島の景観を変えたとはいえ、緑が少なくなっている相模湾沿岸に、冬季冬枯れした寂しい景観内にも、冬でも緑のタブノキやスダジイの高木でおおわれた江の島は、生き生きした生物の躍動を示している。また、江の島南部や南東部に発達しているイソギクハチジョウススキ群集や、マサキートベラ群集の草原、低木林は、相模湾における風衝の強さ、風向を示し、自然環境を知る上では、大きな生物指標となっている。

かつて浮世絵に示されていた江の島はマツノキが多く描かれていた（第I編 Bild 2）。その後、パイオニアのクロマツの下に、安定した常緑広葉樹林が発達したのが現在の姿である。島の観光のための宿泊施設、昔の耕作地、あるいは島の周遊道路のために、その残されてきた緑が破壊され、ナンバンキブシーカラスザンショウ群落、クサギ群落にまとめられる夏緑低木林や、ハマサオトメカズラテリハノイバラ群落、カジイチゴ群集、ミツバアケビアズマネザサ群落などのマント群落、江の島植物園のシバ群落や江の島竜ヶ岡のアズマネザサススキ群集などの草原が、人為的影響によって広がった。しかし、島全体では、まだまだ緑が多く残されている。

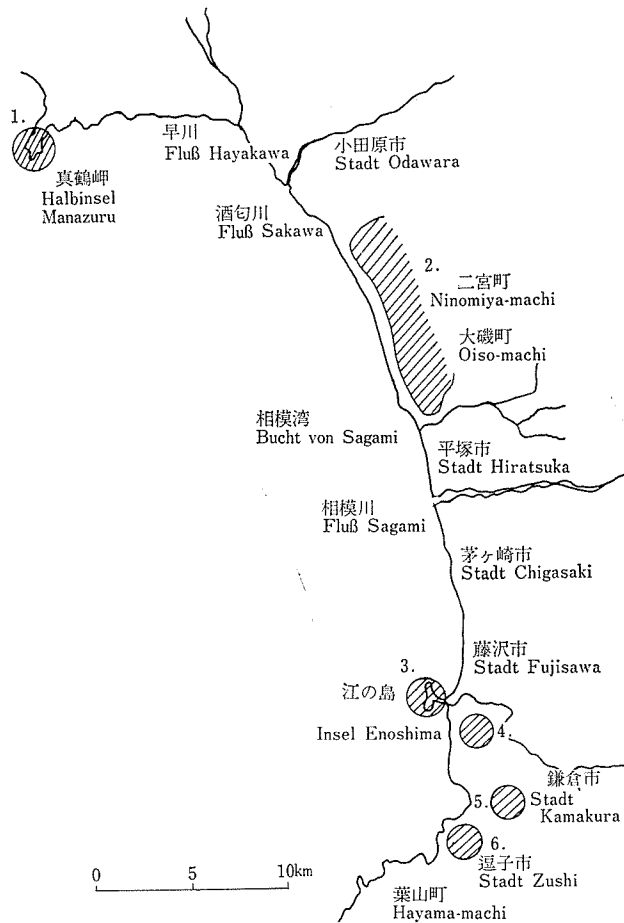


Fig. 1 相模湾岸に残されている緑の位置図
Die Grüne-Punkte Karte in der Bucht Sagami.

凡 例 Lezende

1. 真鶴岬 (ホンバカナワラピースダジイ群集)
Halbinsel Manazuru (*Arachniodes-Castanopsietum sieboldii*)
2. 大磯丘陵 (ヤブコウジースダジイ群集, イノデータブノキ群集, イロハモミジケヤキ群集, オニシバリコナラ群集, クヌギコナラ群集)
Hügel Oiso (*Ardisio-Castanopsietum sieboldii*, *Polysticho-Perseetum thunbergii*, *Aceri-Zelkovetum*, *Daphno pseudomezerei-Quercetum serratae* und *Quercetum acutissimo-serratae*)
3. 江の島 Insel Enoshima (vgl. Heft 1)
4. 片瀬丘陵 (ヤブコウジースダジイ群集, イノデータブノキ群集, オニシバリコナラ群集)
Hügel Katase (*Ardisio-Castanopsietum sieboldii*, *Polysticho-Perseetum thunbergii* und *Daphno pseudomezerei-Quercetum serratae*)
5. 鎌倉八幡宮 (ヤブコウジースダジイ群集)
Schrein-Tempel Kamakura Hachimangu (*Ardisio-Castanopsietum sieboldii*)
6. 小坪 (イノデータブノキ群集)
Kotsubo (*Polysticho-Perseetum thunbergii*)



Fig. 2 斜面に残されているイノデタブノキ群集やヤブコウジ・スダジイ群集。頂部は住宅地や商店に利用されている。

Am Hang der Insel Enoshima erhartenes *Polysticho-Perseetum thunbergii* und *Ardisio-Castanopsietum sieboldii*. Auf dem Rücken entwickelt sich die Siedlung und das Geschäftsviertel.

相模湾岸に数少なく、面積狭くなった緑の自然環境を、相模湾沿岸に住む人々のために、また神奈川県だけではなく、首都圏から週末や休日に緑の憩を求めて訪れる人々のためにも守らなければならない。また江の島の自然や景観は、より自然に近い状態で保全されなければならない。保全するだけではなく、破壊された地区、あるいは建造物が建設される際には、緑の自然環境を創造し、復元して、かつて国指定の史跡名勝地に指定されていた時代に戻す、それ以上の自然環境を創造することが我々の課題であろう。